

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 20年6月24日

【評価実施概要】

事業所番号	0770800324		
法人名	社会福祉法人 天心会		
事業所名	グループホーム すこやか		
所在地	〒966-0902 福島県喜多方市松山町村松字北原3656-1 (電話) 0241-24-4870		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆうビル302号室		
訪問調査日	平成20年5月30日	評価確定日	平成20年7月2日

【情報提供票より】(平成 20年 3月 31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 2月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	16 人
職員数	13 人	常勤 13 人, 非常勤 0 人, 常勤換算	13 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての 1 ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有 (円) ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) ○ 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		750 円	

(4) 利用者の概要

利用者人数	16 名	男性	6 名	女性	10 名
要介護 1	7 名	要介護 2	7 名		
要介護 3	2 名	要介護 4	0 名		
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	68 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	飯塚病院、飯塚病院附属有隣病院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは社会福祉法人が医療と福祉のまちづくりの実現を目指して設立した福祉施設のひとつである。広い敷地の中の福祉ゾーンの一部にあり、設立以来7年経過した2ユニットのホームである。管理者をはじめ全職員が仕事に対して意欲的であり、チームワークも良好で、利用者の表情がとても穏やかで外来者に対しても違和感なく接しており、安心して生活していることが感じられる。看取りについても全職員が積極的に取り組み、現在まで3名の看取りを行ってきた。また、地域との交流には厳しい立地条件であるが、地域密着型サービスを踏まえ、職員が一丸となって取り組み、交流が増えてきている。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価結果を全職員で話し合い、地域密着型サービスを踏まえた理念の見直しを行い、地域とのつきあいや災害対策にも積極的に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>サービス評価を積極的に活用していこうという前向きな姿勢で、職員全員で各項目について自己評価に取り組んだ。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5)</p> <p>運営推進会議の内容は、利用者の状況、行事報告、事故発生事例、ボランティアの受入、地域の行事への参加等であり、参加者からいろんな意見や助言があり、充実してきている。しかし、定期的に開催しているが、2ヶ月に1度の開催とはなっていない。今後は計画的に概ね2ヶ月に1度の原則に従い、開催されることが望ましい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>月1回利用者の暮らしぶりや健康状態を家族に手紙で知らせている。また、金銭管理についても一緒に知らせている。すこやか便りを月に1度発行しており、行事等についても報告している。面会時や電話等でもきめ細かに報告している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域密着型サービスを踏まえた理念に基づき、地域との交流に積極的に取り組んでいる。事業所が法人の広い敷地内にあり、地域との交流がなかなか難しい環境であるが、地区の公民館事業等を通して地域の中に溶け込んでいる。地域住民の方が自由に立ち寄ってくれており、野菜等の差し入れも多い。</p>

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスを踏まえた理念を職員全員で作り上げ、基本方針と共にサービスの実践にあっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の勉強会やカンファレンスで話し合い、理念の共有に努め、全職員が理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議の委員の助言により、地区の公民館事業（いきいきサロン）に利用者が月1回参加している。このサロンへの参加を機に一気に地域との交流が深まり、いきいきサロン（地域住民の交流事業）の5月の事業はグループホームすこやかの見学となり、地域住民や子供達が大勢訪れ、グループホームの存在が広く認識された。		地域住民との交流のきっかけができ、近所の方々が気軽に立ち寄ってくれるようになったので、今後さらに地域との交流推進に取り組まれることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は介護サービスの質の向上の基本であるとの認識から、職員全員で日々のサービスにおける課題を明らかにしながら、評価に取り組んでいる。この評価結果を踏まえ、今後のサービスに活かしていくことにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は会議形式だけでなく、ホームの行事に併せて開催し、利用者との交流を通してホームの実態の把握等、変化に富んだ内容となっている。会議は定期的に行っているが、2ヶ月に1度の開催とはなっていない。	○	今後は概ね2ヶ月に1度開催の原則にそって、年度計画（例、偶数月の第3土曜日等）として、開催されることを望む。
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族へは月1回定期的に利用者の状況等や金銭出納等を報告している。「すこやか便り」ではホームの行事等を知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見や苦情を言いやすいように、面会時等には家族とゆっくり話す時間を持ち、意見や苦情の把握に努めている。出された意見等は運営に反映させる体制となっている。		面会の少ない家族との連携も密にされることを望む。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の職員の異動については十分配慮されている。止むを得ない退職等での異動については、新旧職員と一緒にケアにあたる期間を設け、利用者へのダメージの軽減に配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の年間研修計画により経験年数に応じた研修を実施しており、職員の資格取得についても支援している。ホーム内では合同勉強会を月1回開催し、職員の質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会に参加し、研修会の折に意見交換会や情報交換を通して、他のホームと交流している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者からいろいろなこと(利用者の得意なことや知っていること等)を教えてもらい、お互いに支えあいながら自然体で「共に生きる」を大切に生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用し、日頃から利用者や家族の意向を聴取し、生活支援に反映させている。また、利用者の生活のリズムを把握し、利用者が快適に過ごせるよう職員が意見交換をしながら支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員が協働でアセスメントを実施し、利用者本位の介護計画を作成している。家族の意向や本人の思いを介護計画に反映させている。		今後は全家族と連絡を密にされることを望む。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な介護計画の見直しのほかに利用者の状態の変化等に応じて計画の見直しを行っている。常時利用者や家族とも話し合い、要望や状態の変化に応じて見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている (小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医を受診している。受診には職員が同行し、結果を家族に知らせている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対する指針を定めている。利用者や家族に説明し、終末期の利用者や家族の意思を確認し同意を得ている。また、現在まで3名の看取りを行っており、職員全員で方針の共有をしている。なお医療チームとの連携体制ができています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は全職員が日々の支援の中で利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。「個人情報使用に関わる同意書」については家族に説明し、同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調や思いに配慮しながら支援している。買い物や散歩等、一人ひとりの希望を大切に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは法人内の管理栄養士が作成しているが、施設内の畑で利用者が作った野菜を使用することを基本としている。食事の仕度は利用者ができることを自然に行っており、また職員も利用者と一緒に会話をしながら食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調や希望に配慮しながら支援している。体調により入浴できない場合には、清拭や足浴等を行っている。また、希望により少人数で近くの温泉に出かけている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	ホームの畑での野菜作りや、花壇の手入れ等それぞれが楽しんでいる。また料理、貼り絵、裁縫、刺し子等利用者の希望に応じて支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	買い物や散歩等利用者の希望にそって支援している。個々に外食、ドライブ、知人宅訪問等行っている。また、お花見や紅葉狩り、敬老会の日にホテルでの観劇会等外出の機会を多く計画し実施している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自由に外出できる様に鍵はかけていない。外出したときにはさりげなくついて行き、見守っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練等は月1回様々なパターンを想定して実施している。法人内の他の施設との協力体制が整っており、災害時の備蓄もされている。		今後はさらに地域住民の協力を得られるように努められることを望む。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の管理栄養士による指導に基づき、一人ひとりの栄養摂取量や水分摂取状況をチェック表に記入し、利用者の健康管理に役立てている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットごとに広い和室があり、各コーナーには椅子やテーブルが置かれ、利用者が自由にくつろげるようになっている。共有空間には心地良い音量で音楽が流れており、落ち着いた雰囲気である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が馴染みの品を持ち込み、それぞれ個性的な居室となっている。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム すこやか

記入担当者名 遠藤 厚子

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。